ISSN 2432-7425

2019.3
Vol. 3

# 弘前大学 教養教育開発実践ジャーナル

## 研究ノート

日本のSALCにおける「自律的学習」対「補助的学習」
—予備調査の結果— ソロモン ジョシュア リー 1

書評論文：マーク・ランドー著
「社会心理学における概念メタファー：日常生活の詩学」
バードセール ブライアン ジョン 11

## 実践報告

聞き手を意識したプレゼンテーションの指導実践
—聞き手の理解を得るためのストラテジー指導から— 佐藤 剛 23

弘前大学はやぶさカレッジ・新カリキュラム参加者の面接からの一考察
多田恵実 37

「世界の多様な英語」に挑戦するIntegrated A
立田夏子，佐藤孝宏 49

FD実践報告
学生と一緒に考える アクティブ・ラーニング英語授業
西村君平，中村裕昭，立田夏子
バードセール ブライアン，バーマン シャーリー ジョイ
多田恵実，ソロモン ジョシュア リー 59

アクティブ・ラーニングのランチタイム・プロジェクトで
教養教育科目と英語学習施設をつなぐ
バーマン シャーリー ジョイ，多田恵実 67

弘前大学出版会

弘前大学 教育推進機構 教養教育開発実践センター

# 目　次

研究ノート

1）Autonomous Learning versus Guided Learning in Japanese SALCs: A Preliminary Survey
…… Joshua Lee SOLOMON　1

2）A Review Article of Mark Landau's "Conceptual Metaphor in Social Psychology: The Poetics of Everyday Life"
…… Brian J. BIRDSELL　11

実践報告

1）聞き手を意識したプレゼンテーションの指導実践
―聞き手の理解を得るためのストラテジー指導から―
…… 佐　藤　　剛　23

2）弘前大学はやぶさカレッジ・新カリキュラム参加者の面接からの一考察
…… 多　田　恵　実　37

3）「世界の多様な英語」に挑戦するIntegrated A
…… 立　田　夏　子，佐　藤　孝　宏　49

4）FD実践報告
学生と一緒に考える アクティブ・ラーニング英語授業
…… 西　村　君　平，中　村　裕　昭，立　田　夏　子
バードセール・ブライアン，バーマン・シャーリー・ジョイ
多　田　恵　実，ソロモン・ジョシュア・リー　59

5）Creating a Bridge Between Liberal Arts Classes and the English Lounge Through Active International Lunchtime Projects
…… Shari Joy BERMAN and Megumi TADA　67

# 「弘前大学教養教育開発実践ジャーナル」投稿要項

平成28年11月22日
教養教育開発実践センター編集委員会承認
改正：平成30年７月19日

1．「教養教育開発実践ジャーナル」は、高等教育に関する実践的・学術的研究を促進し、「教養教育」の改善に資するために、その実践的・学術的研究の成果を公表することを目的として刊行する。
2．発行は原則として年１回、３月末とする。
3．原稿の締切は、年度毎に編集委員会が定める。
4．「教養教育開発実践ジャーナル」に掲載する原稿は、次に掲げる(1)～(5)に属するものとし、掲載の可否は編集委員会が判断する。ただし、(1)論文、(2)研究ノートについては査読審査を経たものに限る。なお、(1)論文、(2)研究ノートとして掲載ができないと編集委員会が判断した場合、他の区分として再投稿することを可能とする。
   (1) 論文：教養教育に関する論文
   (2) 研究ノート：教養教育に関する研究ノート
   (3) 実践報告：教養教育に関する実践報告
   (4) 書評：教養教育に関する著書の書評
   (5) その他
5．論文等の原稿は、和文（横書・縦書）又は英文を原則とする。
6．論文等の原稿は、和文20,000字以内、英文6,000語以内を目安とする。
7．論文等は複数編投稿しても良いものとするが、それぞれの論文等が独立し完結したものでなければならない。
8．原稿の作成に際しては所定の執筆要項（別掲）に従うものとする。
9．校正は原則として著者が行い、２校までとする。
10．別刷を希望する場合、経費は著者負担とする。
11．「教養教育開発実践ジャーナル」に掲載された論文等の著作権及び電子化の権利については、以下のとおりとする。
   (1) 掲載された論文等の著作権は、教育推進機構教養教育開発実践センター（編集委員会）に帰属する。
   (2) 当該論文等について、執筆者本人が学術教育目的等で使用する場合（執筆者自身による著作編集物への転載、掲載、ネット配信、外国語への翻訳、配布等）、教育推進機構教養教育開発実践センター（編集委員会）は無条件で許諾する。
   (3) 掲載された論文等は電子化し、原則としてHP、弘前大学リポジトリ等で公開する。
12．投稿原稿は他誌に未発表のものに限る。

附　則
この要項は、平成28年11月22日から施行する。

附　則（平成29年８月４日）
この要項は、平成29年８月４日から実施する。

附　則（平成30年７月19日）
この要項は、平成30年７月19日から実施する。

# 「弘前大学教養教育開発実践ジャーナル」執筆要項

平成28年11月22日
教養教育開発実践センター編集委員会承認
改正：平成30年７月19日

1．原稿は原則として電子ファイルで作製し、メール等で電子ファイルを担当者（執筆申し込みの際に送付先を連絡します）にお送り下さい。また、併せて、電子ファイルを印刷したものに後述の指定事項を記入した紙原稿を添えて下さい。なお、電子ファイルは、PDF、EPS、一太郎、Word、Excel、PowerPoint、TIFF等の一般的なファイル形式として下さい。（TEX, LATEX等の組版原稿には対応できません。）
2．提出原稿は完成原稿とし、図表（写真を含む。）はなるべく少数にとどめ、図表ごとに電子ファイルを一般的な形式で作成し、原稿の電子ファイルと併せて提出して下さい。（作図イメージに近い刷り上がりとするためには、論文として印刷される大きさで作ったPDFファイルをお勧めします。）なお、写真データの解像度は原則300dpi以上として下さい。図表は白黒の刷上がりになります。
3．原稿の書式は、次のとおりとします。
(1) 和文原稿
横書きの場合はＡ４判・１段組、48字×42行を標準とし、フォントサイズは10ポイントを原則とします。縦書きの場合は、Ａ４判・２段組、33字×27行を標準とし、フォントサイズは10ポイントを原則とします。
(2) 英文原稿
Ａ４判･１段組、シングルスペースで38字×45行を標準とし、フォントはTimes New Roman、フォントサイズは12ポイントを原則とします。
(3) 和文・英文原稿共通
図表の提示方法はAPA論文執筆マニュアル（American Psychological Association: APA, 2009）の形式に準じた形式とするが、執筆内容や分野の特性に応じて適宜変更しても良いこととします。
4．原稿は、論文題目、要旨、キーワード、本文、参考文献、付録の順で記載して下さい。
5．論文題目、著者名及び所属は和英両語で記載して下さい。
6．本文の前に要旨（Abstract）及びキーワードを置いて下さい。要旨は、和文の場合は400字以内、英文の場合は200語以内とし、キーワードは最大５語程度として下さい。
7．母語でない言語で原稿を執筆する場合には、母語話者によるチェックを受けて下さい。原稿提出の際には、校正を受けた証明を提出して下さい。
8．参考文献は本文末尾に一括して記載して下さい。なお、参考文献の書き方については、APA論文執筆マニュアル 第６版に記載の方法に従い、和文原稿の場合下記の例を参考に、著者.（発行年）. 論文のタイトル, ジャーナルのタイトル, 掲載ページ数等の情報を必ず入れて下さい。

参考文献の記載例
英文原稿（APA, 2009, pp198–215のうち、特に必要なものについて発行年の情報をyearに書き換えたものを提示した）
書籍
Author, A. A.（year）. *Title of work*. Location: Publisher.
Editor, A.A.（Ed.）.（year）. *Title of work*. Location: Publisher.
書籍の一部の章
Author, A. A., & Author, B. B.（year）. Title of chapter or entry. In A. Editor, B. Editor, & C. Editor（Eds.）., *Title*

*of book*（pp. xxx–xxx）. Location: Publisher.
学術論文
Author, A. A., Author, B. B., Author, C., C.（year）. Title of article. *Title of Periodical*, xx, pp–pp. doi: xx.xxxxxxx
注：doiがない文献の場合は記載不要。学術論文のxxは巻号。
和文原稿
書籍
著者氏名.（発行年）. 書籍のタイトル. 出版された都市: 出版社
書籍の一部の章
著者氏名., & 著者氏名.（発行年）章のタイトル. 編者氏名., 編者氏名（編）. 本のタイトル（pp. xxx–xxx）. 出版された都市: 出版社
学術論文
著者氏名., 著者氏名., & 著者氏名.（発行年）論文タイトル. *雑誌タイトル*, xx, pp–pp. doi: xx. xxxxxxxxxxxxx

９．特別に指定したい事項は、その該当箇所及び指示内容を紙原稿内に朱書するなどして明示して下さい。
10. 原稿の提出に際しては、所定の「投稿申込用紙」に必要事項を記載のうえ、添付して下さい。

附　則
この要項は、平成28年11月22日から実施する。

附　則
この要項は、平成30年７月19日から実施する。

## 教養教育開発実践センター編集委員会

編集委員長　片　岡　俊　一（大学院理工学研究科）
編 集 委 員　今　田　匡　彦（教育学部）
今　泉　忠　淳（大学院医学研究科）
糠　塚　いそし（大学院理工学研究科）
中　村　裕　昭（教育推進機構　教養教育開発実践センター）
横　内　裕一郎（教育推進機構　教養教育開発実践センター）
（2017年10月～）


## 編　集　後　記

「弘前大学教養教育開発実践ジャーナル」第３号が刊行の段となりました。執筆者の皆様は勿論、査読などにご協力頂いた皆様、編集作業に関わった事務職員の皆様、編集委員各位の協力を得て、無事にここまでたどり着けました。ご協力に改めて感謝いたしております。

昨年度から編集委員長を務めておりますが、今号の報文数は昨年度と同じ７編であり、内容も昨年と同様に多岐に富んだものになっていると感じています。編集中に一読させて頂きましたが、私のとっては大変興味深いものばかりでした。このことは、本学の教養教育の質の高さを物語っていると思っています。今年の８月には第69回東北・北海道築大学等高等・共通教育研究会が本学を当番校として、当地で開催されます。その際には、本学の教養教育をPRできればと思っています。

昨年度の編集後記では、よい雑誌になるように努力すると述べました。今回は本文の書式だけではなく、表紙などについても見直してみました．皆様のご批正を頂けたら幸いです。今後とも、ご指導賜りますようお願い申し上げます。

（片岡）


**『弘前大学教養教育開発実践ジャーナル』第３号**

発　行　人　弘前大学 教育推進機構 教養教育開発実践センター
編　　集　教養教育開発実践センター編集委員会
連絡先　〒036-8560　青森県弘前市文京町１
学務部教務課教務グループ　教養教育担当
電話：0172-39-3104　E-mail：jm3104@hirosaki-u.ac.jp
発　行　所　弘前大学出版会 HUP
〒036-8560　青森県弘前市文京町1
電話：0172-39-3168　FAX：0172-39-3171
発行年月日　2019年３月29日　（非売品）
印刷・製本　やまと印刷株式会社

ISSN 2432-7425

# Hirosaki University Journal of Liberal Arts Development and Practices

2019.3
Vol. 3

## RESEARCH NOTES

Autonomous Learning versus Guided Learning in Japanese SALCs: A Preliminary Survey — Joshua Lee SOLOMON 1

A Review Article of Mark Landau's "Conceptual Metaphor in Social Psychology: The Poetics of Everyday Life" — Brian J. BIRDSELL 11

## PRACTICAL REPORTS

Speech Presentation Instruction: Through Strategy Training to Enhance Listener's Understanding — Tsuyoshi SATO 23

Considering Participant Interviews for Curriculum Reform in a University Honors Program — Megumi TADA 37

Integrated A Takes on "Various Englishes of the World" — Natsuko TATSUTA and Takahiro SATO 49

Liberal Arts FD Practical Report
Active Learning in the English Classroom: A Joint Discussion with Students — Kunpei NISHIMURA, Hiroaki NAKAMURA, Natsuko TATSUTA, Brian J. BIRDSELL, Shari Joy BERMAN, Megumi TADA and Joshua Lee SOLOMON 59

Creating a Bridge Between Liberal Arts Classes and the English Lounge Through Active International Lunchtime Projects — Shari Joy BERMAN and Megumi TADA 67

Hirosaki University Press

Center for Liberal Arts Development and Practices,
Institute for Promotion of Higher Education, Hirosaki University